

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2024.2.5-11

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

12:13 さて、彼らはイエスのことばじりをとらえようとして、パリサイ人とヘロデ党の者を数人、イエスのところに遣わした。

12:14 その人たちはやって来てイエスに言った。「先生。私たちは、あなたが真実な方で、だれにも遠慮しない方だと知っております。人の顔色を見ず、真理に基づいて神の道を教えておられるからです。ところで、カエサルに税金を納めることは、律法にかなっているでしょうか、いないでしょうか。納めるべきでしょうか、納めるべきでないでしょうか。」

12:15 イエスは彼らの欺瞞を見抜いて言われた。「なぜわたしを試すのですか。デナリ銀貨を持って来て見せなさい。」

12:16 彼らが持って来ると、イエスは言われた。「これは、だれの肖像と銘ですか。」彼らは、「カエサルの」と言った。

12:17 するとイエスは言われた。「カエサルのものはカエサルに、神のものは神に返しなさい。」彼らはイエスのことばに驚嘆した。

12:18 また、復活はないと言っているサドカイ人たちが、イエスのところに来て質問した。

12:19 「先生、モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が死んで妻を後に残し、子を産まなかった場合、その弟が兄嫁を妻にして、兄のために子孫を起さなければならぬ。』」

12:20 さて、七人の兄弟がいました。長男が妻を迎えましたが、死んで子孫を残しませんでした。

12:21 次男が兄嫁を妻にしましたが、やはり死んで子孫を残しませんでした。三男も同様

でした。

12:22 こうして、七人とも子孫を残しませんでした。最後に、その妻も死にました。

12:23 復活の際、彼らがよみがえるとき、彼女は彼らのうちのだれの妻になるのでしょうか。七人とも彼女を妻にしたのですか。」

12:24 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書も神の力も知らないで、そのために思い違いをしているではありませんか。

12:25 死人の中からよみがえるときには、人はめとることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。

12:26 死人がよみがえることについては、モーセの書にある柴の筒所で、神がモーセにどう語られたか、あなたがたは読んだことがないのですか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』とあります。

12:27 神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神です。あなたがたは大変な思い違いをしています。』

イエス様がもしもカイザルに税金を収める必要はないと言ったなら、彼らはイエス様をローマ帝国にはむかう者であるとして非難したでしょう。またもしもイエス様がカイザルに収めるべきだと言ったなら、ローマの支配を認める売国奴として非難されたでしょう。どちらに答えても敵はイエス様を訴えることができたのです。

しかしイエス様は始めからこのような国と国の力関係や支配関係よりも、次元の高い存在であられました。つまり神の永遠の権威を持った方です。「カイザルのものはカイザルに」というのは、この世のもの神の次元とは違うということです。

私たちは時々、どちらに付くかなどという人間

関係の狭間で悩むときがありますが、このように神のみこころを行うことをまず考えるべきです。この世の結果は神の権威によっていかなうにもなるからです。

また一方、信仰があるからといって、この世の義務を怠ることはできません。税金など課せられたことはそれを果たすべきです。それによって神のものが損なわれることはありません。神の国はこの世の目に見えるものとは違うからです。

サドカイ人は復活を否定していましたから、イエス様に難問を吹っかけることによって、イエス様を非難しようとした。簡単に言うて死別した後に再婚した場合、復活後にどの婚姻関係が成り立つかという質問です。その意図するところは、復活がないからこそモーセは再婚を認めているのだという論理です。

イエス様はふたつの点で反論し、復活の正当性を説明されました。復活の後にはこの世の結婚を超える恵があるのだということ。もちろん結婚はすばらしいものですが、復活の栄光においては結婚を超える、永遠の関係が聖徒たちにあるからです。

また「アブラハムの神…である」というのは、死んだ人の神であることに関して、現在形で表現されているということから、今もアブラハムの神であり、そのアブラハムは消滅してないのだということ。です。

完全な神の知恵で復活を証しなされるイエス様の権威を信頼して、復活の希望を新たに持ちましょう。またその復活の希望と力で満たされて生きましょう。

- ① 神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ② どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③ 生き方にどう適用しますか？
- ④ この世にあって何を実践しますか？

6日 火曜

マルコ



12:28 律法学者の一人が来て、彼らが議論するのを聞いていたが、イエスが見事に答えられたのを見て、イエスに尋ねた。「すべての中で、どれが第一の戒めですか。」

12:29 イエスは答えられた。「第一の戒めはこれです。『聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。』

12:30 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』

12:31 第二の戒めはこれです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。』これよりも重要な命令は、ほかにありません。」

12:32 律法学者はイエスに言った。「先生、そのとおりです。主は唯一であって、そのほかに主はいない、とあなたが言われたことは、まさにそのとおりです。」

12:33 そして、心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛すること、また、隣人を自分自身のように愛することは、どんな全焼のささげ物やいけにえよりもはるかにすぐれています。」

12:34 イエスは、彼が賢く答えたのを見て言われた。「あなたは神の国から遠くない。」それから後は、だれもイエスにあえて尋ねる者はいなかった。

「神を…愛」することと「隣人を…愛する」ことは、どんな律法にも優っているという、聖書的倫理の本髄がここにあります。パリサイ人や他の律法学者のように、自分の義や立場を守るために様々は細かい規定を考えるのではなく、この律法学者は愛の大切さを心に据えていたようです。イエス様の教えを全く受け入れて、同意しました。

イエス様が十字架で罪を負って死んでくださったという愛こそが、聖書の本質であり救いの真髄ですから、愛が分らない者には神は分からないのです。そして神が分らなくては、その神から与えられた律法も分りません。

そのような人々はクリスチャンとなってからも、決まりごとを守ろうとして、形を優先させてしまいます。そして、愛がどのように働いているのかとうことに、思いが行かなくなってしまいがちです。

自分や人の行いが正しいかどうかを判断する前に、まず自分は「心を尽くして愛して」いるかどうかを、真剣に考えてみましょう。言動が愛から出ているかどうか、常に気づくようにしましょう。そのような者にしていきたいです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 水曜

マルコ

12:35 イエスは宮で教えていたとき、こう言われた。「どうして律法学者たちは、キリストをダビデの子だと言うのですか。

12:36 ダビデ自身が、聖霊によって、こう言っています。『主は、私の主に言われた。「あなたは、わたしの右の座に着いてなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』』

12:37 ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるのに、どうしてキリストがダビデの子なのでしょう。」大勢の群衆が、イエスの言われることを喜んで聞いていた。

12:38 イエスはその教えの中でこう言われた。「律法学者たちに気をつけなさい。彼らが願うのは、長い衣を着て歩き回ることに、広場であいさつされること、

12:39 会堂で上席に、宴会で上座に座ることです。

12:40 また、やもめたちの家を食い尽くし、見栄を張って長く祈ります。こういう人たちは、より厳しい罰を受けます。」

12:41 それから、イエスは献金箱の向かい側に座り、群衆がお金を献金箱へ投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちがたくさん投げ入れていた。

12:42 そこに一人の貧しいやもめが来て、レプタ銅貨二枚を投げ入れた。それは一コドラントに当たる。

12:43 イエスは弟子たちを呼んで言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れている人々の中で、だれよりも多くを投げ入れました。

12:44 皆はあり余る中から投げ入れたのに、



この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」

イエス様は教室で講義をするような一方的な授業をしませんでした。このように質問を投げかけ常に語り合いながら、ときには話題を取り上げ、出来事を利用して、相手が興味を持っていることから発展させて神の国の真理を語ったのです。私たちもイエス様との生きた交わりをするなら、生活のあらゆることを通して教えていただけますから、心を開いていきましょう。

律法学者のように、神の真理に生きているはずの人が、この世の人間的な良い扱いを求めるといふのは、おかしなことであり、本当に信仰に生きていないことの証拠です。

クリスチャンも神のみこころに生きることを喜びとしているはずなのに、人からの名誉は誉めことばや儲け話に心が引かれる人があります。

イエス様がこの貧しい女性を誉めたことを思いながら、神様の価値観で生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 木曜

マルコ



13:1 イエスが宮から出て行かれるとき、弟子の一人がイエスに言った。「先生、ご覧ください。なんとすばらしい石、なんとすばらしい建物でしょう。」

13:2 すると、イエスは彼に言われた。「この大きな建物を見ているのですか。ここで、どの石も崩されずに、ほかの石の上に残ることは決してありません。」

13:3 イエスがオリーブ山で宮に向かって座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに尋ねた。

13:4 「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのですか。また、それらがすべて終わりに近づくときのしるしは、どのようなものですか。」

13:5 それで、イエスは彼らに話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。」

13:6 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『私こそ、その者だ』と言って、多くの人を惑わします。

13:7 また、戦争や戦争のうわさを聞いても、うろたえてはいけません。そういうことは必ず起こりますが、まだ終わりではありません。

13:8 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで地震があり、飢饉も起こるからです。これらのことは産みの苦しみの始まりです。

13:9 あなたがたは用心していなさい。人々はあなたがたを地方法院に引き渡します。あなたがたは、会堂で打ちたたかれ、わたしのために、総督たちや王たちの前に立たされます。そのようにして彼らに証しするのです。

13:10 まず福音が、すべての民族に宣べ伝え

られなければなりません。

13:11 人々があなたがたを捕らえて引き渡すとき、何を話そうかと、前もって心配するのはやめなさい。ただ、そのときあなたがたに与えられることを話しなさい。話すのはあなたがたではなく、聖霊です。

13:12 また、兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に逆らって立ち、死に至らせます。

13:13 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。

イエス様が言われたように、この後ローマの將軍ティトゥスが攻めて来た時は、神前が焼かれ、溶けて石の隙間に入り込んだ金を採取するために、「すべての石がくずされ」たのでした。この世に存在するものはみなやがては崩れてしまうものです。

またイエス様は「福音が…あらゆる民族に」と言っておられますから、この終末についての教えは単にイスラエルのことだけではなく、全人類の来るべき終末についても語っておられるのだとわかります。

私たちは常に終わりの日に備える必要があります。ノアの時代もイスラエルの終わりのときも、終わりなどないと思っていた人たちは悲惨な目にあいました。それはこれから起こることにしても同じです。「用心して」いましょう。終わりを迎えることを忘れないで、後悔のないように生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 金曜

マルコ

13:14 『荒らす忌まわしいもの』が、立つてはならない所に立っているのを見たら——
読者はよく理解せよ——ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。

13:15 屋上にいる人は、家から何かを持ち出そうと、下に降りたり、中に入ったりしてはいけません。

13:16 畑にいる人は、上着を取りに戻ってはいけません。

13:17 それらの日、身重の女たちと乳飲み子を持つ女たちは哀れです。

13:18 このことが冬に起こらないように祈りなさい。

13:19 それらの日には、神が創造された被造世界のはじめから今に至るまでなかったような、また、今後も決してないような苦難が起こるからです。

13:20 もし主が、その日数を少なくしてください。さらなかつたら、一人も救われないでしょう。しかし、主は、ご自分が選んだ人たちのために、その日数を少なくしてくださいました。

13:21 そのときに、だれかが、『ご覧なさい。ここにキリストがいる』とか、『あそこにいる』とか言っても、信じてはいけません。

13:22 偽キリストたち、偽預言者たちが現れて、できれば選ばれた者たちを惑わそうと、しるしや不思議を行います。

13:23 あなたがたは、気をつけていなさい。わたしは、すべてのことを前もって話しました。

13:24 しかしその日、これらの苦難に続いて、太陽は暗くなり、月は光を放たなくなり、

13:25 星は天から落ち、天にあるもろもろの



力は揺り動かされます。

13:26 そのとき人々は、人の子が雲のうちに、偉大な力と栄光とともに来るのを見ます。

13:27 そのとき、人の子は御使いたちを遣わし、地の果てから天の果てまで、選ばれた者たちを四方から集めます。

イスラエル民族の苦難と、さらにこの世の終わりについてイエス様が語り、警戒を促しておられます。「荒らす忌まわしいもの」とは、後のローマ皇帝カリグラとも取れますし、ティトスとも取れます。恐らくイエス様はその後何度か起こるイスラエルの民族的苦難について言っておられるのだと思われまます。

それらの歴史上の苦難というのは、最終的に起こるこの世の終わりの決定的苦難を心に留めるためのものです。近代、現代に起こる大災害もまた同じで、それらはサタンの仕業であったとしても、私たちはそこから終末の教訓を学ぶ必要があるのです。

一番肝心なことは、「にせキリスト」にまどわされないことです。「しるしや不思議」というような現象、すなわち奇跡や癒しなどというご利益的なものに心がとらわれていると、間違ってしまうことがあるということです。正しい信仰は正しい聖書理解によって守られます。

日頃から、聖書の全体を正しく学び、謙遜に教えられて、週末の備えを怠らないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 10日 土曜

マルコ

13:28 いちじくの木から教訓を学びなさい。枝が柔らかくなって葉が出て来ると、夏が近いことが分かります。

13:29 同じように、これらのことが起こるのを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていることを知りなさい。

13:30 まことに、あなたがたに言います。これらのことがすべて起こるまでは、この時代が過ぎ去ることは決してありません。

13:31 天地は消え去ります。しかし、わたしのことばは決して消え去ることがありません。

13:32 ただし、その日、その時がいつなのかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。父だけが知っておられます。

13:33 気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたは知らないからです。

13:34 それはちょうど、旅に出る人のようです。家を離れるとき、しもべたちそれぞれに、仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を覚ましているように命じます。

13:35 ですから、目を覚ましていなさい。家の主人がいつ帰って来るのか、夕方なのか、夜中なのか、鶏の鳴くころなのか、明け方なのか、分からないからです。

13:36 主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見ることがないようにしなさい。

13:37 わたしがあなたがたに言っていることは、すべての人に言っているのです。目を覚ましていなさい。」

イエス様はイスラエルの苦難と終わりの日、また全人類の終わりの日について語ります。混同する感



じを受けるかもしれませんが、両者は神の支配によって歴史が決定的に変わるという点では同じです。世界経済や政治や軍事力が変化しても、神様の大きなご計画は確実に起こるのです。第二次大戦後のイスラエル再興がその証であり、またその後のイスラエルを取り巻く中東・世界情勢もまた聖書預言の延長線にあることがわかるでしょう。

イエス様は「戸口まで近づいていること知りなさい。」と言われ、また「その時がいつであるかは、だれも知りません。」とも言っておられます。近いけれども時はわかりません。ことは矛盾しません。いつであるかはわからないのだから、近いという緊張感をもって生きなさいということです。

イスラエルの終末も全人類の終末も神の決定的な時であります。また永遠の世界への決定的な前進でもあります。それは私たち個人の出来事も同じです。人生における決定的な出来事や、また地上生涯の終わりということにも、常に緊張感を持って備える必要があります。

いつまでも同じ状態は続かないこと、主のご計画のみが成ること、信仰を持って備える者は「仕事を割り当てられ」た「責任」を果たし、「しもべ」として、賞賛と報いをいただけるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14:1 過越の祭り、すなわち種なしパンの祭りが二日後に迫っていた。祭司長たちと律法学者たちは、イエスをだまして捕らえ、殺すための良い方法を探していた。

14:2 彼らは、「祭りの間はやめておこう。民が騒ぎを起こすとイケない」と話していた。

14:3 さて、イエスがベタニアで、ツアラウトに冒された人シモンの家におられたときのことである。食事をしておられると、ある女の人、純粋で非常に高価なナルド油の入った小さな壺を持って来て、その壺を割り、イエスの頭に注いだ。

14:4 すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんなに無駄にしたのか。」

14:5 この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」そして、彼女を厳しく責めた。

14:6 すると、イエスは言われた。「彼女を、するまかにさせておきなさい。なぜ困らせるのですか。わたしのために、良いことをしてくれたのです。」

14:7 貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいます。あなたがたは望むとき、いつでも彼らに良いことをしてあげられます。しかし、わたしは、いつもあなたがたと一緒にいるわけではありません。

14:8 彼女は、自分にできることをしたのです。埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。

14:9 まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念とし

て語られます。」

14:10 さて、十二人の一人であるイスカリオテのユダは、祭司長たちのところへ行った。イエスを引き渡すためであった。

14:11 彼らはそれを聞いて喜び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすればイエスをうまく引き渡せるかと、その機をうかがっていた。

イエス様に命の危機が迫っていました。今イエス様に付き従うのも、また危険を感じることだったでしょう。そんな中、「ある女の人」がイエス様への愛と感謝を表しました。

それは人間的な尺度から見たら、「香油をこんなに無駄に」したと言われるようなことでした。また「貧しい人たちに施し」をすることもできたのに、それも無駄にしたと言われました。しかしイエス様はその行為を賞賛されました。

人は様々な良い行いをするチャンスがありますが、その本来の目的と動機を失ってはならないのです。貧しい人への愛は神から与えられるものですから、この神を第一にする動機がなければ、善行がやがて偽善になってしまいます。また神の目的を踏まえないと、薄っぺらな同情主義に陥ってしまうのです。

この女性は全ての愛の根源である、神の自己犠牲の愛を第一に思っていたからこそ、この行動を心を込めて行いました。当然貧しい人には神の愛で、だれよりも謙遜にまた思慮深く接したことでしょう。なぜなら、この出来事の後にも、「貧しい人たちは、いつも一緒にいたからです。」

主への愛を何よりも優先して、「自分にできる」限りの真心で表しましょう。それが人々をどんなときも、だれであっても愛することにつながるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

